

平和な緑と教育の都市 新しい市民のふるさと

46.25
1500/100
05

武蔵野市長期計画 第1次調整計画

昭和49～53年度

武 蔵 野 市

平和な緑と教育の都市、新しい「市民のふるさと」武蔵野市を目ざした長期計画を、市民参加によってつくりあげてから、はや3年目を迎えました。

新しい武蔵野市創造の憲章、武蔵野市基本構想から導き出された長期計画は、この間、広く民主的市政づくりの憲法として、ようやく市政の中に定着し、武蔵野方式とよばれる市民参加の市政が内外から注目されつつあります。そして、計画づくりだけでなく、実施段階まで市民が参加する市民委員会制度と相まって、武蔵野市政は新しい進展をみせています。

長期計画には、3年ごとの計画の調整(ローリング)をうたってありますが、今日の多様化した市民要求、激動する社会、経済情勢に即応して、長期計画の弾力的実効性を高めるため、計画を見直し、その進行を点検し、そして調整を加えて、生き生きとした計画とするのがこのたびの第1次調整計画です。

この調整計画は、当初、討議要綱を広く市民に配布し、それをタタキ台とし、10数回にわたる市民会議において、参加された多数市民の建設的提起と、新しい発想をシステムティックに構築し、つくりあげたものです。

その間当然、市議会は慎重な審議をおこない、市職員は積極的参加をしました。

したがって、この第1次調整計画は、従来より、より幅広く、かつ質的にも高い市民参加が実現されたことに大きな意義があります。

とりわけ市政を客観視するため、全国で初めて「地域生活環境指標」を、調整委員が中心になり市職員が自発的に策定したこと、更に、課題別計画をつくり、タテ割り行政の弊害を除去しようとする試みをしたことは、注目される事項でしょう。

第1次調整計画発表に際し、計画策定にご協力くださった多くの市民ならびに調整委員の方々、市職員をはじめ関係された人々に心から感謝申し上げるとともに、ローリングを重ねるたびに常に新しい市政が創造され、限りない発展が見出されるよう積極的市民参加を一層期待してやみません。

武蔵野市長 後 藤 喜八郎

目 次

第1章	調整計画の意義	3
第2章	調整計画の策定手続	6
第3章	調整計画の構想	9
	(1) 調整計画の前提	9
	(2) 調整計画の目標と原則	10
	(3) 調整計画の課題	10
	(4) 調整計画の考え方	10
第4章	六大事業計画	12
	(1) 緑のネット・ワーク計画	12
	(2) 市民施設のネット・ワーク計画	14
	(3) 全市完全下水道化計画	16
	(4) 吉祥寺駅周辺再開発計画	18
	(5) 中央地区整備計画	20
	(6) 武蔵境駅周辺地区開発計画	20
第5章	三つの重点政策	22
	(1) 子ども・老人と婦人の福祉	22
	① 子ども	22
	② 老人	25
	③ 婦人	25
	(2) 公・災害対策と緑化	26
	① 公害	26
	② 災害	27
	③ 交通災害	27
	④ 緑化	31
	(3) 市民参加・市民文化の確立	31
	① 市民参加	31
	② 市民文化	32
第6章	四つの緊急施策	34
	(1) 米軍施設跡地の確保	34
	(2) ゴミ処理システムの整備	36
	(3) 市民センター建設	39
	(4) 用地の先行取得	39
第7章	調整計画の展開	41
第8章	課題別計画の立案と推進	53
第9章	財政計画	55
第10章	市政における態勢の確立	57
付 表	「長期計画」進行状況(46~48)一覧表	59